

視点 議員団等の来訪への対応

行政監視委員会 専門員

にしざわ としお
西澤 利夫

世はグローバル化の時代となり、昨今は議会間交流等も以前にも増して盛んに行われるようになってきている。昨年は、行政監視委員会関係の議員団等の来訪は3回あった。1回目はアフガニスタン・イスラム共和国国民議会副議長一行、2回目は英国マンチェスター大学のコリン・タルボット教授、そして3回目がベトナム社会主義共和国国会民族評議会議長一行であった。迎える側としては、それぞれの調査目的等に応じた適切な対応を求められることになるが、こうした対応の難しさを実感する場面もあった。

アフガニスタン議員団に対しては、列国議会同盟(I P U)の民主化支援プログラムの一環として、6月14日の研修の第3セッションにおいて、行政監視(透明性と説明責任の強化、腐敗防止)に関するブリーフィングを行った。このときは、我が国における行政監視の仕組みについてまとめたレジュメを用意し、当日はそれに沿って説明を行った。先方は行政監視について非常に高い関心を持っており、こちらの説明も熱心に聞いてくれた。これからの国づくり、戦後復興にとって大変参考になったと御礼の言葉もいただいた。

タルボット教授(専門は行政サービス、行政改革)との面談は、常会閉会後の6月27日に行われた。教授からは、「業績・評価報告に関するシステム及びこれへの立法府の対応についての国際比較研究に取り組む予定であり、については6月25日に開催される政策評価国際シンポジウムの前後に、実務レベルの方との面談の機会を得たい」という意向が事前に伝えられていた。そこで、委員会等における政策評価についての過去の論議の状況を調査することとした。当日は、本委員会と政策評価との関わりなどについて説明するとともに、各委員会等における論議の状況についても説明した。その後の質疑応答も活発に行われ、教授からは大変満足のいく調査だったとのメッセージをいただいた。

ベトナム議員団との懇談は、行政監視委員会との間で12月13日に行われた。このときは、行政監視委員会の活動状況をまとめた英訳の資料を配付し、それを説明した後、質問に移ったところ、先方から、行政監視の枠を超えて、議会制度に関する基本的事項などについて質問が続出する展開となった。こうした展開になることを想定して、そういった関係の資料も幅広く用意しておけば先方にもっと喜ばれたのにと、後で大変残念な気がした。会議の話題は、話が弾むと往々にして想定外の展開になるものである。相手方のあることとはいえ、そうした先を読むことの難しさを再認識した次第である。

議会間交流は、今後のグローバル化の進展する時代にあって、各国間の相互理解を深め、また世界の共通の価値観となりつつある民主主義等を拡大する手段として、益々その重要性を増していくものと思われる。そうした議会間交流を支える裏方として、これまでの様々な経験を活かし、その更なる発展のために微力を尽くしたいと思う。